

編集後記

「一般病院におけるリハビリテーション活動」を正面からとりあげたのは本誌では初めてのことであるが、各論文とも具体的で、豊富なデータを通して問題点を浮彫りにしていただいた。座談会も含め、今後のリハビリテーション医療の体系化を考えていく上のよい参考となろう。

二木氏は東京都内の中心地域にある中規模一般病院、磯村氏は農村の地域中心病院という正に第一線の病院における、いずれも脳卒中を中心とするリハビリテーション活動について詳しく述べておられる。特に二木氏の「自宅への直接退院80%」という成績は注目に値する。長尾氏・他は全国の労災病院についての詳細なアンケート調査によって、労災病院におけるリハビリテーション活動の現状と問題点を検討しており興味深い。山口氏・他は、東大病院リハ部の15年間の活動を中心に大学病院におけるリハビリテーション活動をのべた。横山氏の司会による座談会では、一般病院と専門病院のそれぞれの立場からの率直な発言によって、問題点がかなり明確に

された。特に現在の一般病院（リハビリテーション部門を持たない）では「基本的な管理もしてくれてない」という指摘は痛烈である。司会者が結論的に述べた「専門病院の必要性」については誰しも異論がないであろう。ただ、専門病院の立地条件（山間と都市部）についてもう少し議論があってもよかったのではあるまいか。

その他、「講座」では、福井氏の「片麻痺手指にたいする治療」は具体的で有益な内容であり、また本号からはじまった「脳性麻痺の周辺」は、脳性麻痺児のリハビリテーションにあたって、前提として知っていなければならない必須事項についての講座として、大いに期待される。「研究と報告」も澤村氏・他の大腿短断端のマネジメントに関する力作は興味深い。

齊藤氏が「巻頭言」でいわれるように、新しい時代を迎える日本のリハビリテーション医学は大事な時期に当り、これまでの歴史をふまえつつ着実に前進していきたいものである。（上田 敏）

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
杉 山 尚
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水 野 祥 太 郎

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
土 屋 弘 吉
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江 口 壽 榮 夫
荻 島 秀 男
小 野 啓 郎
加 倉 井 周 一
河 邨 文 一 郎
五 味 重 春
齊 藤 正 也
沢 村 誠 志
武 智 秀 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
間 得 之
長 谷 川 恒 雄
橋 倉 一 裕
福 井 罔 彦
三 島 博 信
渡 辺 英 夫
飯 田 卯 之 吉
田 中 照 子
小 川 孟
野 村 敏
小 島 蓉 子
笹 沼 澄 子
鈴 木 明 子
高 田 玲 子
林 玉 子
土 屋 和 夫
松 村 秩
(以上五十音順、敬称略)

(細田、鹿島)

次号予告 (第7巻第8号)

特集 精神科リハビリテーション

特集にあたって……………山梨日下部病院 松 井 紀 和
精神科リハビリテーションの特色と動向……国立精神衛生研 岡 上 和 雄
病院内リハビリテーション活動……………昭和大島山病院 竹 村 堅 次
病院外リハビリテーション活動……神奈川精神衛生センター 石 原 幸 夫
地域精神医療活動の実際……………都精神医学研究所 湯 浅 修 一
社会復帰センターでの活動……………都立世田谷リハセンター 蜂 矢 英 彦

講座 リハビリテーションにおける治療 (8)

(切断端の疼痛に対する処置)……………川崎医大 土 肥 信 之
脳性麻痺の周辺 (2) (合併症)……………松戸クリニック 丸 山 博

資料 統計でみるヨーロッパ諸国のリハビリテ

ーション・障害者福祉 (12) (デンマーク)……………代々木病院 二 木 立・他